

自然エネルギーを核に新産業の創出目指す



エージー・ジャパン社長
相原 英二氏

自然エネルギー先進都市を目指す福島県会津若松市。これまでにも豊富な構想にも参加し、エネルギーを作るだけでなく、賢い使い方も模索している。室井照平市長に同市の再生可能エネルギー関連施策について、太陽光発電システムで急成長中のエージー・ジャパンの相原英一社長に再生可能エネルギーの今後の展開などを聞いた。

(聞き手・福島支局長阿部義秀)



会津若松市長
室井 照平氏

再生可能エネルギー先進都市を目指す福島県会津若松市。これまでにも豊富な構想にも参加し、エネルギーを作るだけでなく、賢い使い方も模索している。室井照平市長に同市の再生可能エネルギー関連施策について、太陽光発電システムで急成長中のエージー・ジャパンの相原英一社長に再生可能エネルギーの今後の展開などを聞いた。

再生可能エネルギーの先進地——「会津」

特別対談

太陽光への関心高めて 相原氏

自立して成長

東日本大震災では若手、宮城、福島県の沿岸部を中心に甚大な被害を受け、個人としても会社としても非常に心を痛めました。特に福島県は東京電力福島第一原子力発電所の事故で、これまでも経験したことのない苦境に立たされています。その中で会津若松市は被災者への手厚い支援に加えて、再生可能エネルギーなど新産業の振興に力を入れています。

汗動(かんどう)、協働による全員参加の「ふるさと会津」の再生活動に満ちた新生会津若松市づくりを目指し、工場地団地への企業誘致などに積極的に取り組んできました。新生会津若松市は高齢者には安心、子供には希望、若者には働く環境を提供できるように変化しました。

2011年8月以来、室井照平市長が就任し、2012年4月に就任する相原社長へ手厚い支援を繼續してきました。

汗動(かんどう)、協働による全員参加の「ふ

るさと会津」の再生活動に力を入れています。

汗動(かんどう)、協働による全員参加の「ふ